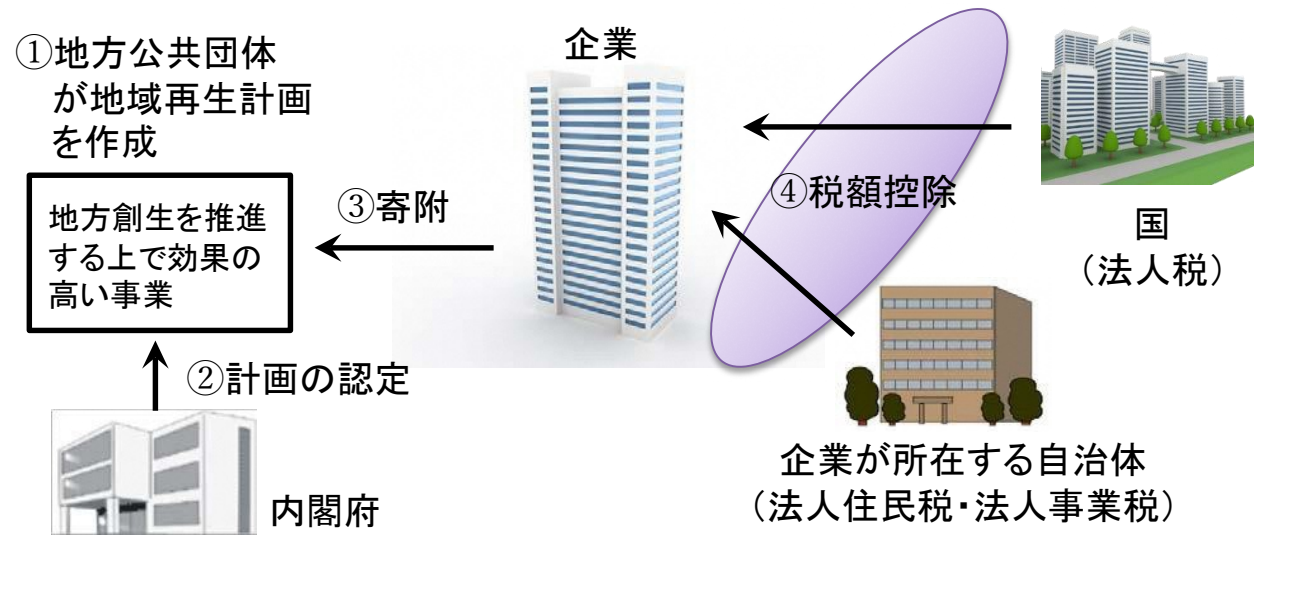


企業版ふるさと納税とは

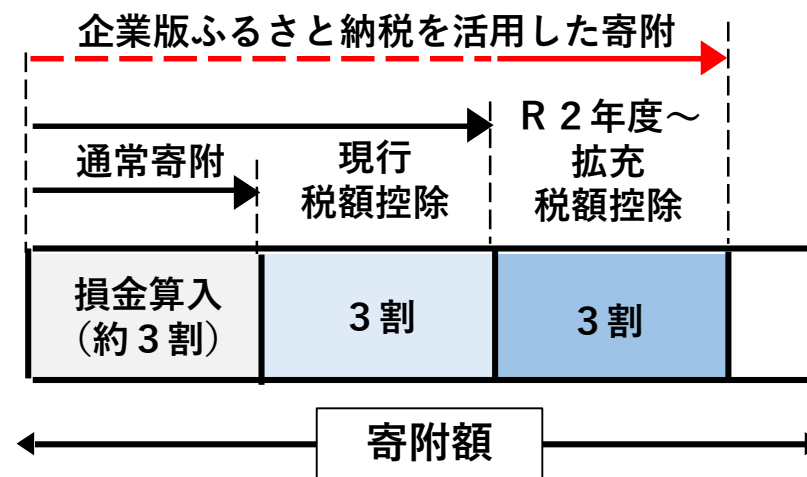
制度概要

地方公共団体が実施する地方創生のプロジェクトに対して、企業が寄附を行った場合に、税制控除の措置を受けることができる制度

制度活用の流れ



税額控除の仕組み



企業メリット

社会貢献

地方自治体との新たな
パートナーシップの構築

地域資源などを生かした
新事業展開

制度のポイント

- ・ 税額控除による税制上の優遇措置が受けられる
- ・ 1回あたり10万円以上の寄附が対象（上限：事業費の範囲内）
- ・ 本社が所在する地方自治体への寄附は、制度対象外

他市の取組事例

【例1】子どもの夢と希望応援プロジェクト

(目的)

他市町村に先駆けた幅広い出産支援・子育て支援・教育に係る独自の取組を進めることで、子育て世帯にとっての魅力を高め、子育て世帯に「住みたい」と選んでもらえるまちを実現し、**転出の抑制・移住の促進**を図る。

また、流入した子育て世帯が本市の魅力を実感することで、さらなる新たな子育て世帯を呼び込む、**子育て世帯流入の好循環が生まれる**ことを目標とする。

(事業の内容)

保育士の処遇改善や、出産から幼児期、学齢期まで切れ目ない支援を強化・拡充することで、幅広い子育て世帯にとっての魅力を高め、子育て世帯に「住みたい」と選んでもらえるまちを実現する。

また、**子育て・教育に関する施策について、広く市外にPR**し、子育てしやすい本市の魅力を広く周知することで、子育て世帯の流入を促す。

【地方版総合戦略における位置付け】

「若い世帯における出産・子育ての希望の実現」

K P I ①年少人口（0歳～14歳）
K P I ②市外からの移住者数

【例2】総合文化施設整備事業

(目的)

総合文化施設を整備し、優れた実演芸術の公演等を行うことで、**広域交流の促進と来場者による市内広域拠点の賑わい創出**を図るとともに、市民の日常練習や発表などの文化芸術活動を行う「**文化芸術の基幹施設**」とする。

(事業の内容)

総合文化施設を整備する。整備後においては、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の理念・趣旨に基づく施設と位置づけ、優れた鑑賞事業や、ワンコインコンサートなどの気軽な鑑賞事業の開催、文化芸術活動の促進、若手アーティストの育成、次世代を担う子ども達の文化芸術への興味の醸成など、**幅広く事業を展開し、情報発信を行う**ことで、交流人口の増加につなげる。

【地方版総合戦略における位置付け】

「産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める」「人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち」

K P I ①主催事業における市外からの来館者数
K P I ②市駅利用者の市域人口に対する割合

他市の取組事例

【例3】駅前交流センター事業

(目的)

駅前の空き店舗を活用し、官民一体となり中心市街地のにぎわいを創出することで、**空き店舗への新たな出店や店舗の売り上げ向上等、地域経済の活性化を実現**する。

(事業の内容)

駅前の空き店舗を市が借り上げ、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場としてのカフェスペース（椅子、テーブルを設置し、コーヒー等を提供）、市の伝統工芸を展示する**スペースを設置**し、併せて「名産品センター」を駅前に移転し、市民や観光客の集客を図る。**来訪者に対しては観光、商店、イベント等の情報を発信**し、周辺施設への回遊を促す。また、同施設内にボランティア団体等に貸し出す事務所を設置し、市民団体が実施するイルミネーション、クリスマスイベント等様々なイベントの活動拠点やまちなか再生の基地として積極的な活用を図り、さらに、観光客や買物客が市内の移動を手軽に行えるように**自転車を貸し出すレンタサイクル貸出コーナーを設置**し、官民一体で中心市街地のにぎわいを創り出す。

【地方版総合戦略における位置付け】

都市機能が集積する中心市街地の活性化と機能強化を図り、生活利便性の向上とにぎわいの創出を図る

K P I ①中心市街地通行量

K P I ②渋川地区名産品センター売上額

【例4】駅前等整備プロジェクト事業

(目的)

市民の重要な公共交通手段である3駅の利便性を向上させ、市の玄関口としてふさわしい駅前を整備するものである。これにより、通勤・通学者及び来訪者等が利用しやすい、環境にやさしいまちを創出し、**市のイメージアップ、観光振興、地域の魅力発信、さらには市内企業の産業振興を図る**ことを目的とする。

(事業の内容)

市民をはじめ、ビジネス・観光等で本市を訪れる方々の**主要な公共交通手段であるJR3駅の駅前等において、公衆トイレ、駅前広場、駐輪場、市道拡幅などを整備**する。

【地方版総合戦略における位置付け】

「時代に合った地域づくりができ、安心して暮らせるまち」「(1)時代に合った住環境の整備を定め、拠点間における移動手段として公共交通の充実・活性化を進める」

「このまちにまた来たい」、「このまちで家族と暮らしたい」「(2)移住・定住の促進を定め、環境にやさしいまち、公共交通網の整備などまちの魅力を向上させ移住・定住の促進を進める」

K P I ①JR3駅乗車人員（人／日・年平均）

K P I ②朝ピーク時間(6:30-9:40)乗降者数